

令和5年度第2回富士宮市文化財保存活用地域計画協議会議事録

令和6年1月9日（金）13:30～

<p>教育部長</p>	<p>皆さんこんにちは。本日はお忙しい中ありがとうございます。市内12地域に出向き、この計画の説明と、各地域の文化財について聴き取りを行った。</p> <p>参加された方々から、地域の暮らしの様子が分かる文化財や古文書等があるお宅等の情報をいただいた。</p> <p>今回の説明会での意見交換は、少子高齢化による人手不足や生活スタイルの変化による価値観の多様化などで、各地域の皆さんもそれまで守ってきた行事や文化を伝えていくのが難しくなっていると感じているようだった。私達の先人が生活してきた歴史文化を守り引き継ぐこと、また既に無くなってしまったことも、調査や記録をすることで、その地域の特徴や地域らしさを伝えることになると思っている。</p> <p>今回の文化財保存活用地域計画は未指定の文化財や文化財保護法以外の歴史文化資料までも対象とするので、富士宮らしさの掘り起こしもできるのではないかと思う。</p> <p>本日は、計画の要となる将来像と基本方針についてお話していただき、それぞれの立場でご意見をいただきたい。</p>
<p>小笠原会長</p>	<p>会長挨拶</p> <p>今日は地域説明会での資料から地域にとって切実な他の問題、色々なことが見えてくると思う。住民の声をなるべく反映して、住民のためになる、文化を守り育て伝えていく計画が作っていければというふうに思う。地域での問題の根幹として地域の文化をどう守り伝えていくか、地域の人たちがその文化をどのように理解していくか、文化財をどう守っていくか、そういうのがやはり一番重要なこと、アイデンティティと言うんですかね、保つためにも非常に重要なことであるかと思います。</p>
<p>小笠原会長</p>	<p>議事</p> <p>議事の(1)、地域説明会と公聴会の報告</p>
<p>事務局</p>	<p>文化課の学術文化財係の中野から説明いたします。</p> <p>資料1-1-1のとおり10月31日から12月14日の間に12地区で実施</p> <p>資料1-1-2は今回行った地域区分図</p> <p>次の1-2は説明会で使った資料</p> <p>アンケートなどを並行して行った。内容は、文化財とは、文化財保存活用地域計画で扱う文化財、文化財を守る必要性、富士宮の文化財の成り立ちと風土、現在の文化財の課題、文化財への期待</p> <p>アンケート結果</p> <p>問1「あなたが思う文化財とは何ですか。(複数回答可)」については、近代のものは該当しないと思う方が多い。</p> <p>問2「文化財の言葉のイメージ」については、「貴重な宝物」「継承していかななくてはならない」が高い反面、わずかだが「身近に感じない」方もいた。</p> <p>問3「文化財を地域の宝として次世代に伝えていくことをどのように思いますか」については、大半の方が「重要」と考えている。</p> <p>問4「富士宮市での文化財を守る取り組みで知っているものはありますか(複数回答)」については、市史編さん事業で収集について広報しているが、あまり知られていないと感じた。博物館</p>

	<p>館についても、かなり長く検討しているが知らない方が多い。</p> <p>問5「文化財に接する機会」については、予想していたが観光旅行が多く、行事について少ないのは、行事自体が現象または参加の機会の減少等感じた。</p> <p>問6「文化財の情報収集をする際の媒体」については、回答数が多いのは、市が発行している冊子や市のホームページということで、市からの情報発信の重要性を感じた。</p>
事務局	<p>1-4-1 皆さんからいただいた課題です。</p> <p>『明らかな価値が分かっているか』『守り伝えられているか』『理解者を増やすということの活用』で分類した。</p> <p>全体的に多い意見が、「興味がない」「関心が無い」、「知っている人が高齢化などで居なくなってくる」があった。</p> <p>『守り伝える』では、「コロナで実施できなかった」だけでなく、逆に「実施しなくても何とかなるとい認識になってしまい、今まで頑張って出てきてくれたお祭りも参加者が減り、特に高齢者少なくなってきた」という意見があった。</p> <p>ほかに、「担い手不足」「どんど焼きなど行事を行える場所がない」「費用がかかる」という意見があった。</p> <p>『理解者を増やす活用』では「生活とは無縁」「文化財という言葉が、市民にピンときてない」というような意見があった。ほかに「きっかけがない」「理解できる場所」などもあった。</p> <p>1-4-2 は、課題を解決するためのアイデアについてです。</p> <p>「関心がないこと」をどうにかするためには、「興味を引くような事業の実施、例えばゲーム性を持たせる、アニメの利用」「博物館などの中心になるものが必要」「学校での活用」などの意見があり、特に学校との連携などの意見が多かった。</p> <p>『活用する』場合に、「興味のあるところに結び付ける」という意見が多くあった。</p> <p>『伝える』では、「地域で交流する場面が少なくなっている」「コミュニケーションを取ることが必要」「高齢者等の話す機会を作って、子どもと触れ合うような所を作る」「学校での総合学習（富士山学習）に大人を巻き込む」という意見があった。</p> <p>1-5-1 は聞き取りによる文化財 600 件位以上あったが、今後精査して絞っていく。 その1つとして大宮東地区のものを1-5-2 で挙げた。 大宮東地区は富士の方から岩本山を越えて、富士宮駅の駅南と一部駅北の範囲。かつて富士山に登る方が岩本山を越えて黒田などを通り、浅間大社にお参りして村山浅間神社に向かった。また、浅間大社から山宮浅間神社への御神幸道が、この地域の阿幸地を歩いていった。富士登山の方が集まる宗心寺、村山の山伏が阿幸地や富士見が丘を管理していたことなど富士山信仰とも関わりがある地域。また源頼朝の伝承などの意見もあった。</p>
小笠原会長	<p>ただいま事務局よりご説明がありました、何かご意見ございましたらお願いいたします。</p> <p>大宮東中学校区の文化財では、地域の特性を反映したものが、こんなにもたくさん住民の方から出てきて驚いている。ほとんどが未指定の文化財で、掘り起こせば掘り起こすほどその地域の特色を示すものが出てくるんだと非常に感心をしている。こういった取り組みぜひとも続けていただけると再認識するきっかけにもなると思う。</p>
佐野（順）委員	<p>区からの参加者と一般というのがあるが、一般の方が14人で区からの参加者が133人で、ほとんどの区長さんとか町内会長さんだったということでいいですか。</p>
事務局	<p>はい。一般の方は実際少なかったかなと思う。</p>
佐野（順）委員	<p>公聴会の説明会の部分でございまして、他の学区の説明会公聴会の、こういうような情報が欲しいなど。</p>

事務局	分かりました。
佐野（順） 委員	猪之頭の区長なので白糸・上井出地区に出たが、他の学区の情報が欲しいと感じた。
事務局	はい、今後、リストを作成しますので提供していきたい。
小笠原会長	では次に議事の(2)、富士宮市の概要と文化財の特徴について
事務局	<p>地域計画に記載する富士宮市の歴史文化の特徴とは、歴史上の単なる出来事としてではなく、富士宮の自然・社会・歴史を基礎として起こった歴史文化に共通するテーマ</p> <p>前回の協議会では、富士宮市の歴史文化の特徴として「街道と往還の文化交流」「富士山のもとに集う」「富士山の湧水と生活と産業」「朝霧高原の景観と産業文化」「富士山の自然災害とそこでの暮らし」という意見をいただいた。</p> <p>今回は、まず歴史文化の特徴の背景となる自然的・地理的環境、社会的状況、歴史的背景について事務局側の整理を聞いて、概要、歴史文化の特徴について、皆様にご意見をいただきたい。</p> <p>まず富士宮市の位置について。</p> <p>富士宮市は東側は富士市、南端は静岡市清水区、西側から北側は山梨県と接する。</p> <p>富士宮市は、昭和 17 年に大宮町と富丘村の合併により誕生し、その後昭和 30 年に富士根村、昭和 33 年に白糸村、上出村、北山村、上野村と合併した。</p> <p>一方芝川町は、昭和 31 年に芝富村と内房村が合併してできた芝富村が、昭和 32 年に柚野村と合併して誕生した。</p> <p>そして平成 22 年 3 月に富士宮市と芝川町が合併することで、現在の富士宮市となった。現在の面積は 389.08 km<sup>2</sup>で県内第 3 位となっている。</p>
事務局	<p>つづいて地形について。</p> <p>富士宮市は、富士山南西麓に位置し、市域には富士山頂が含まれることから、標高が最も高い富士山頂のから最も低い市内山本までの標高差は、日本一となっている。</p> <p>市西部には、1,000m～2,000m 級の険しい天子（天守）山地がそびえ、富士川が南縁を流れる。天子山地と富士山の間には、断層運動により隆起したなだらかな羽鮒・星山の二つの丘陵、富士川の南には、やや険しい蒲原丘陵が存在する。</p> <p>市域の多くが富士山斜面の傾斜地で、北東から南西に向かって緩やかな傾斜地となっている。羽鮒丘陵・星山丘陵に沿って流れる潤井川の氾濫原に、現在の市街地が形成された。</p>
事務局	<p>つづいて地質について。</p> <p>富士宮市の大地は、約 2 万年前に富士山が西側に崩れた時に発生した大量の土砂（岩屑なだれ堆積物）が広く分布し、その上を富士山の溶岩が流れている。</p> <p>岩屑なだれ堆積物は水を通しにくく、溶岩は水を通しやすいという特徴がある。そのためほとんどが溶岩に覆われた市内の北山や山宮・万野などでは、地表には水が現れていない。</p> <p>その結果、市内は水の豊富な地域とそうでない地域に分かれている。</p> <p>たとえば溶岩の末端部にあたる猪之頭や市街地付近では地表に湧水が現れ、それらを生かした産業や文化が発達した。</p> <p>一方、先ほど挙げた北山や山宮、万野などの溶岩に覆われた地域では、溶岩にしみ込んでしまうため地表に湧水が現れない。そのため雨水に頼るほか、河川や湧水地から用水を開削し、土地の開発を試みてきた。</p>
事務局	<p>つづいて人口と交通について。</p> <p>富士宮市の人口は、令和 5 年 4 月 1 日時点で 128,706 人であり、静岡県内で 8 位。</p> <p>富士宮市の交通のうち、まず道路は古くは奈良時代以降、駿河国（静岡県東部）と甲斐国（山</p>

	<p>梨県)を結ぶ若彦路・春田路(中道往還)が通り、特に中道往還は軍用・商品輸送路などとして利用されてきた。</p> <p>中道往還の一部は現主要道路の国道139号になる。その他国道を補完する幹線道路網が整備され、県道などで中心市街地と市内各地区とが結ばれる。</p> <p>国道・県道は東名・新東名と接続しており、静岡県と山梨県を結ぶ重要なルートとなっている。</p> <p>鉄道・バスなどの公共交通については、明治～昭和初期まで富士市と市街地・市北部地域を結ぶ馬車鉄道が利用された。</p> <p>昭和3年に富士市と山梨県甲府市を結ぶJR身延線が開通して以後、現在にいたるまで利用されている。また一般路線バスは、富士宮駅と市内各地区や周辺都市を結ぶように配置されている。</p>
事務局	<p>続いて土地利用と産業について。</p> <p>富士宮市の産業は第2次産業に従事する割合が高く、第3次産業に従事する人口の割合がやや低いという特徴がある。</p> <p>土地利用と産業のかかわりを見ていくと、まず第1次産業について、北部地域では広大な土地を利用した酪農、豊かな湧水を利用した養鱒・ワサビづくりなどが行われている。</p> <p>上野のあたりまで下りてくると、豊富な湧水と多くの用水を利用した広大な稲作地帯が広がる。</p> <p>先ほど地質のところで話した溶岩に覆われた、水が少ない地域では、富士山の溶岩土壌を生かした茶・野菜などの畑作が行われた。</p> <p>第2次産業については、北山や山宮など富士山麓の豊かな自然環境・広大な土地・都市圏からの交通の良さを利用した工業団地が形成されている。</p> <p>市街地周辺の潤井川や支流ではきれいで豊かな水を多く利用した化学、パルプ・紙などの工場が作られた。</p> <p>第3次産業については、白糸の滝や朝霧高原などの豊かな自然や文化財があることなどから、観光地として発展している。また従来の市街地に加え、国道や県道沿いに商業地が拡大している。</p>
事務局	<p>歴史的背景</p> <p>考古：</p> <p>旧石器時代：富士宮市において人々の営みが確認されるのは、後期旧石器時代から。富士宮市の大部分というのは、2万年前に発生した富士山の山体崩壊による土砂、岩屑なだれに覆われているため、9世紀以来の遺跡は、この岩屑なだれに覆われていない範囲のみで確認されております。これまで確認された遺跡は星山丘陵の上の山本付近にある下高原遺跡と羽鮎丘陵上の小塚A遺跡</p> <p>縄文時代：日本全国に広く人が住み始める時期。富士宮市でも国指定史跡の大鹿窪遺跡や千居遺跡など、縄文時代全盛期、全期間の遺跡が多く残る時代。縄文時代のはじまりである草創期は、定住など新たな生活様式への移行期にあたる。前期に入ると気候が温暖になり、水産資源の利用が進み、木の実なども植物質の食料利用により定住が進む。市内では、河川を望む高台に遺跡が多く営まれる。遺跡は潤井川流域、芝川流域で富士根地域に集中し、前半を中心に多くの遺跡がある。縄文時代後期以降になりますと、遺跡は減少していく。</p> <p>弥生時代：日本列島でも弥生時代に西日本から本格的な水田稲作が始まる。富士宮地域においては、弥生時代中期に潤井川流域の大地状に営まれた渋沢遺跡が代表的な遺跡。しかし、明確な水田の痕跡は確認できていない。</p>

	<p>後期になると、潤井川流域の沖積地などで遺跡が営まれる。また星山丘陵にも遺跡が広がっていく。</p> <p>古墳時代：前期には弥生時代後期に続き遺跡が増える。特に潤井川流域や星山丘陵の他、弓沢川流域や小泉大岩地区に遺跡が増加し、大岩地区の丸ヶ谷戸遺跡では、前方後方型周溝墓が作られた。中期は確認できる遺跡が浅間大社遺跡や大宮城跡などに減少する。後期に入ると遺跡数も回復し小規模なものだが、古墳の築造も行われました。</p>
事務局	<p>古代：奈良時代になると、およそ現在の富士市・富士宮市域に当たる範囲が駿河国富士郡と定められる。当初は、現在富士の周辺に郡役所が置かれたようだが、平安時代後半頃には廃れていく。それと時期を同じくするように平安時代後半以降、浅間大社周辺で人々の生活が営まれるようになり、浅間大社やその祭祀の場である山宮浅間神社が作られた。</p> <p>平安時代末：富士宮市域は甲斐国と駿河国を結ぶ 2 本の道が通っていた。源平の戦いの際にはその道が戦いの舞台となった。</p> <p>鎌倉時代初期：征夷大將軍、源頼朝は、交通の要衝で狩りを行う他、富士宮市北部を狩場として選びました。</p> <p>鎌倉時代末期：日蓮の高弟日興とその弟子たちによって、富士五山が開かれた。</p> <p>室町時代以降：富士郡は東西の政治的な境界地域となる。</p> <p>室町時代：西の室町幕府と東の鎌倉府が、戦国時代には、周辺の戦国大名である今川、武田、北条氏が支配権を巡って争った。</p> <p>また鎌倉時代から引き続き駿河の国を結ぶ道、中道往還が利用され、道沿いには宿場が形成されました。</p> <p>江戸時代：初期、北山用水などの用水路の開発が行われ、広大な富士山麓の原野の開発が試みられた。</p> <p>一方で富士山麓の林は御林（江戸幕府が直轄化、この直轄化した林のことを御林という）となり、管理下に置かれた。</p> <p>中世に引き続き、鎌倉室町時代から引き続き甲斐、駿河を結ぶ中道往還が交通輸送路として使われる他、身延山へ向かう身延道や富士川を利用して山梨と駿河を結ぶ富士川舟運が開かれた。</p> <p>往還路は海産物や塩、絹などのものだけではなく、石工などの技術者や文化などをもたらした。一方で舟運形成は水難事故ももたらし、川沿いには供養費が建てられた。</p> <p>近代：富士山麓の開拓が行われた。</p> <p>幕末に、明治元年、約 250 個の土族が万野原に入植し、万野原が開発された。万野原には土族たちが進む長屋が作られた。</p> <p>戦後になると、昭和 21 年に西富士開拓団により朝霧高原の開拓が開始された。28 年には西富士地区が酪農振興地域となり、本格的な酪農が開始され、36 年からは大規模な牧草地改良工事が開始され朝霧高原が現在のような広い牧草地となった。</p> <p>：静岡、山梨を結ぶ新たな交通網が発達した。</p> <p>明治 22 年の東海道線開通に伴う馬車鉄道が開通。明治 42 年からは、東海道と山梨を結ぶ身延線の開設、拡張路線バスの開通が行われ、これに伴い馬車鉄道が廃止となった。</p> <p>：産業の発達</p> <p>明治以降豊富な水を生かした製紙業や水力発電、やせた土地でもできる養蚕や茶の生産が行われた。</p> <p>昭和以降、豊富な湧水や水温などの環境から猪之頭に養鱒場が開設されました。</p> <p>以上が、全体的な通史であるが、富士宮市と言うと富士山に関わる場所は特論で取り上げる</p>

	<p>べきと考え、歴史的背景の特論として富士山の信仰と、富士山と災害の対策は別に説明の項目を作る予定。</p> <p>富士山信仰</p> <p>古代の富士山信仰、噴火が盛んな時期、湧水地などで祈りの場を作り、噴火を鎮めようとした。</p> <p>平安時代末から鎌倉時代に火山活動が落ち着いてくると、富士山が山岳修行の場となり、富士山に経巻が埋められるなどが行われた。</p> <p>中世に入ると富士山への信仰登山が始まる。浅間大社所有の参詣曼荼羅などが作られた。村山は修験者たちが住む集落となった。西国から富士登山者がやってきて、浅間大社や村山を通して山頂を目指すようになった。</p> <p>江戸時代になって中世に引き続き富士山の信仰登山が盛んに行われた。</p> <p>江戸時代の中期以降、江戸を中心に新興宗教である富士講が爆発的に流行する。開祖が訪れた人穴や白糸滝を訪れ、山梨と人穴、上井出は信仰の道で結ばれるようになった。</p> <p>近代、富士山の仏教色がまず取り除かれた。自動車ルート of 登山道、スカイラインが開通し、効率化で旧来の登山道が使われなくなり、信仰登山の意味が薄れた。一方で、旧来の登山道の再確認、再評価がなされつつある。</p>
事務局	<p>富士山の災害対策</p> <p>大沢崩れの進行については、現在富士砂防事務所によるダム設置工事などで対策が行われている。</p> <p>噴火については、広域避難計画やハザードマップを作ることによって対策が行われている。</p> <p>潤井川の氾濫とそれに伴う周辺の河川の氾濫は、潤井川は富士山から出てくる沢の一つであり、堤防や星山放水路の設置によって対策がとられている。</p> <p>雪代は春先に頻発する土石流で、これについては江戸時代にいくつか記録が残っている。江戸時代には砂よけの堤が作られ、一番堀や二番堀が作られ、明治以降には三番堀というものが作られた。</p> <p>林野火災について、江戸時代には山麓の見回りが村々の仕事として挙げられている。</p> <p>市街地では、異常湧水があり、現在も何度も起こっているもので、こちらについては観測井、土嚢積み、排水作業によって対策がとられている。</p>
小笠原会長	次に議事の(3)の将来像と基本方針について
事務局	<p>基本的な将来像と方向性について</p> <p>資料は、資料3。</p> <p>これは『計画を作成する流れ』で黄色いところが現在取り組んでいる部分。</p> <p>富士宮市の特徴、自然・地理については、先ほど説明した。</p> <p>富士宮市の文化財の把握は、自治会で作成した区誌、調査報告書、地域説明会&amp;公聴会でいただいたものから把握。関連計画・施策・民間活動の把握については、12月に庁内各課に調査を行い、今後も各方面から情報を得るために調査を継続していく。</p> <p>現時点で把握できているものから、富士宮市の将来像(案)を検討し、また基本方針を作成した。</p> <p>国が示す計画作成に関する指針では、『地域計画での将来像は、当該市町村の状況や歴史文化の特性を踏まえて、文化財の保存・活用に関する目標(将来像)やそれを実現するための方向性を記載すること』としている。</p> <p>富士宮市の状況として、上位計画の総合計画と第3次教育振興基本計画を確認した。</p> <p>第5次総合計画では、将来像を「富士山の恵みを活かした元気に輝く国際文化都市」として</p>

	<p>いる。これは令和7年度までであり、変わる可能性があるが、現時点ではこちらで考えている第5次総合計画第1章の将来都市像の部分では、国際色豊かで文化的な都市を目指すとする。このことについて、「さまざまな国の文化が交流するまちの中で、富士宮市民として富士宮の歴史文化を伝えることで富士宮らしさが伝わる。」と考えた。</p>
事務局	<p>次に富士宮市教育振興基本計画について確認した。</p> <p>富士宮市教育委員会の目標は『子どもの未来のための人づくり』『市民の生涯にわたっての人づくり』。</p> <p>これについて、富士宮の歴史文化の関わりは、地域の歴史文化を知ること、郷土への誇りや愛着を持てるようになり、郷土愛を持った人づくりに貢献できると考えた。</p> <p>また、富士宮市の歴史文化を学ぶ活動、守り伝える活動は、生涯にわたって取り組めるものと思う。</p> <p>先ほど説明した富士宮の歴史文化の特徴として、富士山の自然の恵みを活用し、また自然に対応し、脅威を克服して富士山と共生してきた中で生まれた歴史文化があると考えた。</p> <p>富士宮の歴史文化を通して、富士宮らしさを市内だけではなく海外にも伝え、交流し、文化の豊かなまちとなる。</p> <p>富士宮の歴史文化の学びを通して、郷土への誇りや郷土愛を持てる生涯学習として、歴史文化を学び、学びを生かした活動を行える。それにより市外に出た若者が富士宮に戻って来る、文化財を未来へ引き継ぐための担い手が育つと考えた。</p> <p>こういったところから、案として「富士山とともに生きた歴史文化に誇りを持ち、守り、未来へ伝える」という将来像を考えた。</p> <p>先人たちによる富士山の恩恵による歴史文化や富士山の自然の脅威に知恵と工夫で対応した歴史など様々な歴史文化を知り、その事に誇りを持つということが、今日の富士宮にも誇りを持つことに繋がると感じる。</p> <p>そして誇りを持って守り伝えることで、将来の富士宮市民が郷土に誇りを持ちながら、次の歴史を作っていくことになると思う。</p> <p>総合計画のが令和8年度に見直しということになるため、総合計画の進み具合で確認しながら、こちらの方は変えていくこともあるということで（案）として扱わせていただきたい。</p>
事務局	<p>次にこの将来像に向かって進めるために、富士宮市の将来の歴史文化がどのようになっているのかについて考えてみた。</p> <p>まず、富士宮の歴史文化について明らかになっていない『価値を明らかにしていく』『この価値を活用して広く伝え、多くの方にその価値を知っていただき、地域や関係者などの理解者を増やす』そして、その価値を所有者など一部の人のみではなく、地域や関係者など、『理解者と協力して守り伝えていく』その上で、まだ解明されていない歴史文化について、価値を明らかにしていく、こういったことを繰り返していく中で、富士宮の歴史文化が未来に伝えられていくと考えた。</p> <p>ではその3点について、現状どんな状態かというところを地域での説明会と公聴会、加えて市文化課の職員の意見から考えてみた。</p> <p>『価値が明らかである』という点については、「地域で伝えられてきた価値は次世代に確実に伝えられていないのではないか」「知っている人がいなくなってしまうことが懸念」されています。また「関心がないので伝えられない」「掘り下げていくべき」との意見。文化課は、「十分な調査ができていないものが多い」と感じています。</p> <p>『活用して理解者を増やす』については「知るきっかけがない」「知る手段、場がない」「価値がわからない」「地域の資源を生かしきれていない」「事業がマンネリ化しているのではない</p>

	<p>か」との意見があった。</p> <p>『みんなで守り伝える』については、「少子高齢化の影響や周辺地域の開発もあり、これまで守ってきた体制が崩れてしまっている」ように感じた。文化課では「収蔵施設が十分でない」ことが挙げられた。</p>
事務局	<p>次に課題と方針</p> <p>先ほど、この一つのキーワードについての現状を挙げたが、それについて課題を考えた。</p> <p>『価値が明らかである』という点については、「指定等の文化財として調査、価値づけがなされている歴史文化遺産の他、特定の地域コミュニティや年齢層の人間、人だけが知っている様々な形態の歴史文化遺産が存在し、これらが次の世代に伝わらないことや、市内外の文化財が十分に把握されていない」ことが課題であり、地域ごとの特性を明らかにし、多面的に富士宮市を理解するために、それらを地域住民とともに丹念に拾い上げ、記録化データベース化していく取り組みが必要と思われる。</p> <p>こういったところから、方針としては『地域の魅力を掘り起こす』と考えた。</p> <p>『活用し、理解者を増やす』については、課題は「市民が地域の歴史文化に触れたり学んだりする機会が少ないこと、歴史文化への理解や興味、認知度に大きな隔たりがあり、文化財を身近な存在として感じるができないことが課題となっている」と考えた。</p> <p>これを解決していく方針として『地域の魅力を発信し、ファンを増やす』とした。</p> <p>『みんなで守り伝える』についての課題は、「少子高齢化や生活スタイルの変化により、地域経済の存続が難しい状況にある中で、人手、場所、金銭的な問題から、地域の歴史文化を維持できない状況にある。地域の多様な歴史文化に関心を持ち、学び、保存に関わっていく人材や団体を支えていくために、関連する諸活動の活発化やその支援を行うことが必要」である。</p> <p>方針としては『守り育て、守り伝える人を育て、伝える』と考えた。</p> <p>先ほど将来像の方を挙げましたが、その将来像に向かっていくために進める方針として、『地域の魅力を掘り起こす』『地域の魅力を発信し、ファンを増やす』『守り伝える人を育て、支える』と三つ挙げさせていただいた。</p> <p>皆様のご意見を伺って、もっと良いものにしていければと思っている。</p> <p>今回この会議の中で意見を出していただいた後も、各方面との意見交換、新たな課題や加えるべき方針などがあれば、文言やそういったものも見直すことも考えている</p> <p>この将来像や方針というのは、この計画を推進する市民や関係者にもご理解いただけるものではないと考えているので、今の説明で不明な点などがあればご意見いただきたい。</p>
石田委員	<p>ちょっと方向が違うと思うが、水に関して、富士宮はすごい魅力がある。だから、その水を大切にする、神世の昔から、それで今までずっと同じ水が出てくる。これはもっともっと未来に守っていきたい。水を保護することについて何か知恵があったら、お願いしたい。</p>
小笠原会長	<p>事務局の方いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>将来像の案は歴史文化っていうところに焦点を持っていて、「富士山と共に」というところに水が含まれていて、表に出ていない。市民が水はやっぱり重要なことということと思うのであれば、見えるようなことも考えていきたいと思います。</p>
事務局	<p>水については二つの面があって、一つは歴史上にいろいろな役目を果たしている。特に富士宮の生活は、水があるところとないところが極端に違うという中で、すぐく水に依存しているという側面がある。もう一つは自然環境の中で水がどうして育まれてきたのかという背景もある。</p>
小笠原会長	<p>よろしいですか、他の方お願いします。</p>
角入委員	<p>そもそも富士宮は湧玉池、湧水があって、富士山の噴火を鎮めるために湧玉池の周りに浅間大</p>

	<p>社ができた。湧水と富士宮の歴史は切り離せないと思っている。鱒池もそうだし、産業と水は昔から密接に関わっている。水の切り口であれば、ストーリーとして面白いかと思う。</p> <p>もう一つ聞きたいが『みんなで守り伝える』の中で、関連する諸活動の活発化等を支援していきましょうと書いてあるが、さっき僕が地域説明会、懇談会の中で一般の人って少なかったと言ったが、この歴史とか文化とか郷土史とか興味のある人は、おそらく多くいらっしやって、何かそれぞれ活動しているのではないかと思う。そういう方々にもっと頑張ってもらおうとか、そういうグループを拡げてもらうとか、活動の支援みたいな、そんなことができるといいなってちょっと思った。</p>
小笠原会長	ありがとうございます。それでは、事務局の方から。
事務局	はい、またこの後ちょっと説明もしますが、色んな課題を解決していくためのこともこれから考えていきますので、そういったところで、色んな方の活動を支援するようなことも考えていきたいと思う。
小笠原会長	基本方針に関しても含めて将来像、基本方針について意見はございますか。
井出委員	この基本方針というのは、富士宮市役所全体の方針か、それとも文化の関係の方針か。
事務局	今回の計画の中での方針ですので、文化財を保存活用して将来に繋げていくための方針を挙げている。
井出委員	以前、市の全体の目標みたいなのがあったときに、三島市と全く同じだった。どちらも大変に素晴らしい目標の文言だと思うが、もう少しインパクトがある、身近な、キャッチーな分かりやすいものがよいのでは。長いかなと思った。
事務局	最初の『富士山とともに生きた歴史文化に誇りをもち守り未来へ伝える』という部分のことでよろしいでしょうか。
井出委員	はい
事務局	今回将来像を考えるのに色々な他市のものも少し見たりした。今回富士宮はさっぱりした感じかなと思っている。例えば、ちょっと今持ってきていないのですが、小山町あたりは、3行目ぐらいの長い将来像。いろいろな思いを込めて、将来像を読めばなんとなく細かいことまで多少分かるってような作り方があるかなとも思う。今回は富士宮っていうと、この富士山なしでは語れないという中で、自然の中で色んなものに対応して共生して生きてきたっていうところを表したいなというところで、簡単に富士山とともに生きたっていうところで言葉で表したが、短い言葉でインパクトなのか、詳しくした方がいいのかということですか。
井出委員	短い方がいい。
小笠原会長	富士宮の文化財キャッチフレーズみたいなものだね。これは本当に色々なご意見があるかなと思うがどうでしょうか。
事務局	ちなみに小山町の方では『私達は富士のもと水と緑に恵まれていることに誇りをもち金太郎のように健康で明るい豊かなまち作りを進めます』という長いキャッチフレーズ。もしもっとキャッチーなキャッチフレーズ、こんな感じはどうだろうかというのもありましたら、ご意見いただきたい。
小笠原会長	今ハードルが上がったよ。
事務局	ちなみに総合計画の方では富士山、先ほど言ったが『富士山の恵みを生かした元気に輝く国際文化都市』となっている。長期的にはもうちょっと短いかもしれない。
齋藤委員	水とか、こういった要素について富士山の正と負の賜物というキーワードも使っていけるのではないかなと思う。富士宮だけに限ったことではないので、難しいところだとは思いますが、そういったことを1点申したいなと思いました。
事務局	プラスマイナス、利益と損失みたいなイメージのお話でよいか。

斎藤委員	はい。
菊池委員	富士市では、『富士の麓で文化財と生きるまちをつくる』としているので、重ならないように工夫するのが必要かなと思う。
角入委員	私が昔から富士と富士宮とちょっと違うなと思うのは、富士宮は富士山の南西斜面と、斜面そのものが富士宮の町。だから世界遺産になったときに富士山に住んでいる、富士山に住まわせてもらっている富士宮市民だよ、富士山のある街じゃないよ、富士山そのものに街があるんだよ、っていうのを言った覚えがあったので、参考までに。
植松部長	まさしく、ともに生きた、じゃないですか。
小笠原会長	今のご指摘、重要な点ですね。確かにそうですね。
事務局	ありがとうございます。
小笠原会長	富士山と共にあるのはこっちだと。富士宮ですもんね、言われてみれば。
部長	これを富士山に住むとか。
事務局	富士山に生きたとか。
小笠原会長	富士山に生きた歴史文化とか。歴史文化の特徴でもありますね。富士山に生きるすね。
望月委員	<p>今回、地域ごとに色々な話を吸い上げていただいて、色々な意見として出てきたのはすごくありがたい。それから、富士山からいただいている宝物がまさに富士宮かなというところで、「富士山の賜物」、「宝物」をいただいたみたいなの、そんなところが入っていたらいいのかなと思う。</p> <p>富士山学習とか子どもたちが学習する中で、今インターネットで全部検索するが、地元のことは検索しても出てこない。子供たちが検索できる富士宮は独自で地元の情報のページを作っただけでいいなと思った。</p> <p>また、今聞かなきゃいけないことが沢山あると思うので、実際に行ったら、子どもさんがいると分かりやすく説明してくれると思う。そういう授業に大人も飛び込んでいくようなことが、学校連携できるとよいと思う。</p> <p>自然保護関係について、貴重な植物の情報など特定の人にしか出せないようにすると良いと思う。</p>
佐野（順）委員	<p>今猪之頭区長なので猪之頭地区しか知りませんが、猪之頭の学習発表会は、お年寄りに聞いてくる。また、少子高齢化についてアンケートを取って対策まで考える。</p> <p>区長なので聞きに来るが、私は知らないの、私がお年寄りに聞きに行く。そういう部分の中で見ると、お年寄りに話を聞かないと、その方々が亡くなると情報が途切れてしまう。文化については非常に幅広くて深いところで、どこでどういう、形にしていくかというのは非常に難しいと思う。</p> <p>区のホームページを、誘客とか移住とか関係とかで作っているが、歴史をちょっと文化もホームページに入れておくといいかなと感じた。</p>
小笠原会長	素晴らしいご意見ありがとうございます。オーラルヒストリーを収集して伝えていくのは重要な取り組みだと思う。
諸星委員	<p>P T A連合会の代表です。子どもたちは今富士山学習についてかなり力を入れている。本門寺や本妙寺、その行事などホームページでも紹介している。</p> <p>全ての富士宮市民に周知していただく方法というのは、市役所の方の立ち上げて認識しているですか。</p>
事務局	各地域の歴史文化を色々、オーラルヒストリーにしる、みんなで集めようっていうところの始まりを市の方がこう投げかけて、全市的にやりましょうっていう形ってことですか。
諸星委員	例えば市役所や病院など人が集まるところで、スクリーンに、地域性のあるものを圧縮して漫

	<p>画化、ドラマ化したものを常に流して置いたらいいのではと思う。漫画など動くものにする と、お母さんたちが連れてきた子どもなども見ると思う。本など調べる方法はあると思うが、 視覚から入った方が小さい子も入りやすいし、お年寄りも富士宮のことなので見ると思う。</p>
諸星委員	<p>ありがとうございました。今諸星委員のおっしゃっていただいたことは、地域説明会に出てき た課題の、一つを解決するような方策をご提案だと思ふ。その辺も含めて事務局から何かコメ ントがあれば。</p>
事務局	<p>先ほど今、方針将来像と方針というところで一通り説明しましたが、方針の中で地域の魅力を 発信するといったところに結びつけるような事業も将来的にやっていくようなものを計画に盛 り込めたらなと思ふ。実際地域の方でも地域の学習発表、小学校のものをビジュアル化した 方がいいという意見もあったので、何か考えられればなと思ふ。</p>
諸星委員	<p>ターゲットを大人にするか子どもにするかがあると思うが、富士宮市全体で考えれば、動画を見 られる小さい子の視覚も動かした方がなんとなく次世代に繋がっていくと思ったので提案し た。</p>
事務局	<p>地域説明会の時の意見として、お年寄りの方は紙芝居等でも十分楽しめるが、若い子はゲー ム性のあるものとか動画の方が良い、内容は一緒にいいが、発信の方法を変えた方がいいとい うような意見があった。 あとはやはり地区ごとに魅力があるので、地区ごとの内容を調べて紹介するというようなもの を作った方がいいだろうということで、例えば地域の有名人をキャラクター化して地域を紹介 するような動画等を作ったらどうかという意見があった。</p>
諸星委員	<p>保護者の方の立場として子どもを育てていく場合に、視覚的などころから入って行って、なん となく知っているから興味がある、検索してみようという方向に誘導していかないと、子ども たちは、一瞬一瞬で終わってしまうので、長く勉強などで携わっていかないと考える。</p>
事務局	<p>事務局サイドからの補足で、学校との連携とか、オーラルヒストリーについて、どこの地域説 明会でも必ず指摘があった。こういったことについて具体的にどういう方策をとっていくかとい う議論の中でまた再度議論させていただければと思ひますし、今おっしゃっていただいた 様々な方法論、色々ありますので、またその辺もぜひお寄せいただければと思ひます。いづれに しましても学校教育との連携ってところが、各地域、中学校区でやったというのもあるんで すけれども、色々指摘されていますのでそこら辺も含めながら皆さんと一緒に考えていただ ければと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p>
小笠原会長	<p>斎藤委員お願ひします。</p>
斎藤委員	<p>私は二中の出身で、私が入った数年前に富士山学習が始まっているんですけども、その頃は 自分たちでアポイントを取って調べたい内容について色々人と自分で、これも聞いて調べた かったらこの人に聞く、というふうに決めて自分たちでアポイントを取って聞きに行く形でし たので、もう 20 年以上前ですが、そういった形、今のネットで調べる時代に適応していくでも いいですし、そういった原点に立ち返るような形でも地域と学校教育とが関わっていけるのか なと思ひました。</p>
小笠原会長	<p>ありがとうございます。他に何かありますか。</p>
角入委員	<p>ちょっと聞きたいが区誌、区の歴史、ああいうのはどのぐらいの区があるのか。それと、今言 った、PTAのビブリオバトルですか。ラウンジでやるが、ああいうようなものを使って何か</p>

	<p>全部、小学校から中学校まで全部行き渡るじゃないですか。ああいうのを使って何かできたらいいよね。</p>
事務局	<p>区誌については今日資料を持って来なくて申し訳ない。</p> <p>かなりの数のところで区誌を作っている。今回聞き取りをする中で、区誌を読んでもらえば分かるようにというのもあったが、かなり細かいものが上がってきたというのが、やはりそういった区誌があって、区民もそれを知っていると余計に上がってきている。区誌を作ってきたのもすごく良かったことだなと思うので、引き続き作れるように進めていければと思っている。</p> <p>ビブリオバトルみたいな形でということについては、今富士山学習を学校で、各学校でまず発表などをして、それを多分一つ市内で1日で色々な学校が集まってやるんですよ。そんな形で違う地域の子たちが一緒になってうちの地域ではこんなの、というところで発表する場はあると思うんですけど、なかなかビブリオバトルみたいに大きいステージで、皆さん大勢の方に向かってっていうような華々しさはそこまでないかもしれないですね。</p>
諸星委員	<p>コロナ禍でビブリオバトルが始まりましたが、各学校で選考された子たちが、校内の、本来のビブリオバトルって自分の好きな本を読んで、その魅力を伝えてっていうこと。それを活用するのであれば、区誌とかそういうものをビブリオバトルするっていう話なのかと思う。</p> <p>ただコロナ禍で、校内ではちょっとビブリオバトルのほうで一等賞二等賞とか今やり始めたところ。今、大きい学校では子供たちもまだ制限がかかっているところで、富士山学習もコロナでずっと中止になっていた。</p> <p>私達北山、上野とかは、解除が決まっていって自分たちの良さを代表の子たちが選ばれた子供たちが紹介しに行くことが今始まりつつありまして、今年も行った。地域性の近いところでしかやってないが、昔は市民文化会館でやっていた。</p>
角入委員	<p>そうじゃなくて、あのネットワークを使ってお昼ならお昼、食事の時に、みんな同じようなものを流して見ようが見まいがいいかな、そうやって流しておけば、子供たちの目には、中学校までは入ると思う。だからビブリオバトルのネットワークを使って、と思った。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。今日いらっしゃっている方で富士山学習のことご存じない方もいらっしゃるので、次回、資料を参考に出させていただきたいと思います。本当に確かに子どもたちが凄く一生懸命調べているので、それを何かに生かすような形というのは作っていただければいいかなと思います。</p>
小笠原会長	<p>はい、ありがとうございます。なかなか具体的な方策、新しい取り組みまでも出てきて、聞いていて楽しい。そういうのを会長が言っちゃいけないんですけど。すいませんこんな楽しい会はなかなかないかっていうふうな感じです。</p> <p>今のご意見の続きとかでも結構ですので、資料1-4について先ほどちょっと指摘されましたけど1-4の1あたり、いろんな課題が地域からあった。最後になるが、そういった課題とかを見ての感想でも構わないし、何かをいくつか全体を含めてご意見等あれば、ちょっと順番にお話をいただければと。もう話し尽くしたっていう人はね、特にもう出す必要はございませんので、まだご発言いただいていない方もいらっしゃいますので、ぜひ何かご感想でも構いませんので、ちょっと順番にやっていたらなと思います。では望月委員からお願いいたします。</p>
望月委員	<p>1-4-1の、課題をいくつか見させていただいて、人がどうしても足りないということは、どこの地域も共通で、富士宮だけではないっていうところもある。</p> <p>その中で先日ちょうどお昼に市役所来て、事務局の話聞いたが、村山の浅間さんの資料が県の文化財になったということで、お披露目があった。説明を聞いたが、その時に聞きに来ていたのが、根北地区の人が何人かいて、私も根北なので、話が弾んだ。あそこにこんな人がい</p>

て、あんなことがあったと繋がったので、集まるような場で話せるような人がいるというのはすごく盛り上がるなと思って聞いておりました。

その時も話に出たんですが、出張博物館のように博物館がどんどん出ていくような時代なので、地域の中で実施すると、その地域でこういう興味のある人が集まってそんな場が生まれたりするのかなと思って、聞いておりました。

あと、歴史は新しく変わっていくので私の子どもに色々教えていてもお母さん今その名前じゃ国ないよ、って言われることがあります。なので、子どもに教えるにあたって、やっぱりちょっと恥ずかしくない新しい歴史っていうものを学ぶような機会があったらいいなと思ったので、こういったことも新しく発見された。例えば北山用水とかも新しく指定されました。何でもか、そういったようなことが大人もやはり学び直す機会というのが必要なと思う。その際に学校は学び直しの場としては適当かというふうに感じておりました。

あと、富士市でシティプロモーション課というのがある。子どもが富士市の学校に通っており、そこでプロの専門家が入って、映像を作るという授業がある。富士市の宣伝を高校生が作って今、映像で、YouTubeで見られる。専門家の目が入って指導が入ると、皆さん本気で作り、最新のものとして情報も使えるので、授業の中に取り入れて富士宮市で流すっていうのも一つかなと思っております。

あと、今、毎日流れている富士宮の歌について、小さい子みんな歌えるようになった。昔あった「富士の富士宮」っていう歌があったが、皆さんご存知の通り、そんな中に文化財全部入れることがあると面白いなと思った。

斎藤委員

私からはまず、公聴会での解決アイデアにもある、マスコットキャラクターとかゲーム性を取り入れていくことが多分出たのではないかなと思ったが、地域の魅力を発信しファンを増やしていく上で富士宮市には例えば埋蔵文化財センターのお便りに添えられているモグラのキャラクターがいて、これは発掘調査をモグラに例えたものなのかなと思っており、そのモグラが手持ち看板でメッセージを持ったりして、それを例えば活用していくこともできるかなと思ってイラストを使ってその看板を持ったモグラのイラストを使ったクイズラリーとかクイズの看板だったり張り紙とか、そういうのを今後取り入れていくことで、写真のシェアとか、あと、そういうのを推奨化していくことでマンネリ化の打破ができたり、パネルの公募とかで市民をこの街の魅力を掘り起こすモグラとして巻き込んでいけるのではないかなと考えた。

また、魅力を掘り起こすことや発信活用面で気になっていることが今、世界遺産登録 10 周年を前面に押し出しているが、先ほど説明があったように、我々が麓に生きている富士山というのは世界の宝であるという誇りを大事にすることは当然大切だが、これはどうすれば、やっぱり自分たちの町の宝という宝へのマイクロな眼差しよりもその目立つ世界という遠く大きなちょっと他人ごとと言えてくる感覚を抱く市民もいるのではないかなあと思う。

そもそも、その文化遺産、世界遺産について 1990 年代頃から富士山を世界自然遺産にしようという活動があって、2000 年頃には富士山サミットなんていうものも富士富士宮エリアで開催されたりして、私も中学校の代表で参加し、郷土学習の成果を発表したり、富士山の美化活動を行ったが、その頃、富士宮は関連市町の一つだったと思う。しかし、自然遺産でなく文化遺産になってきたことで重要拠点へと変遷していったと思う。そうした流れの影響をもろに受けてきたというのも富士宮ならではの歴史と思う。そういった近年の取り組みも、富士山とともに生きた歴史文化というものに入るものと思うので、昨今のそして今の我々と富士山との関わり方というのをいかに盛り込んでいくかは課題だと考える。

また広聴会のアンケート分析で、近代以降については文化財という意識がやや薄れやすいとあったが、その一方で、のちの資料の活用面の整備事業として白糸滝について挙げられている

	<p>が、世界遺産の構成資産として整備されていく中で、滝壺内の人工物を撤去し、これからの未来のために過去の原点に立ち返ろうという動きを感じる。しかし、これがもしかしたら今を生きるのに手一杯の人たちにとって、やはり他人事感を出してしまう可能性もあるのかなと思った。</p> <p>私個人としては、子どもの頃から親しんだノスタルジックなイカ焼きの匂いがするお店屋さんがある白糸の滝なんていうのも好きだったりしたので、そういった近代の原風景よりも過去やルーツを選択していくことが、最新の未来を築いていく過程で必要とはなると思うが、過去を選ぶ動きは、近代を文化財と感じさせにくい傾向に関係するのかなと思った。</p> <p>考古学は今を知り、未来を考える学問である、という言葉も読んだことがあるが、魅力を掘り起こし活用していく上で、今を実際に生きている市民にどう他人事を感じさせないか、歴史文化を今と地続きの自分事とどう感じさせるのか、いつを保存し、今と未来にどう活用していくのか、それを考えることが最大の課題だと考えるので、これを市民の意識とこの計画等をうまくすり合わせていくことが、この町の歴史文化をみんなで守り伝えることに繋がっていくかなと思います。長くなりましたが以上です。</p>
諸星委員	<p>すいません、先ほどたくさん伝えさせていただいたので、あれでよろしいでしょうか。</p>
高柳委員	<p>私は地域富士宮市の地域女性連絡会で市芝居を作っている。前の回にもお伝えしましたが、富士宮市全域の紙芝居がある。先日は小学校 3 年生、地域学習のために、南小学校に行ってきた。猪之頭で紙芝居を作った年は呼んでもらったが、毎年できれば 3 年生から 3 年、地域学習として読んでほしい。よろしくお願いします。それから新しい紙芝居が 3 月 3 日発表になります。お時間がある方はいらしてください。よろしくお願いします。以上です。</p>
中山委員	<p>目標の将来像について、短いのがいいというお話でしたので、「富士山とともに生きた歴史文化の再発見」これだけ一つの案。再発見ということはイコール守り未来に伝える、も入るんじゃないかな。また何かカタカナであるとかだったら面白いかなと思います。</p> <p>それからガイドをしている中で、人穴の観光案内所に行ったときに、西富士中学校で作った西富士平和新聞っていうのをたまたま見かけた。平成 26 年の 11 月 15 日のものだが、ここに書いてあるのは、上井出にある少年戦車兵学校について本当に細かく書いてあった。この間気になったので行って、近所での農作業やっている方に伺ったところ、やはり後継者が中々いないので、守っていくのが大変だけれども、やはり戦争ということになると、対外的な国際的な問題にも発展するので、中々難しいところがあるんだよというような話を伺いました。</p> <p>同時にもう一つ、浅間大社に忠魂碑があるが、区誌を見ると、非常に苦労してあの溶岩の石を朝の午前 3 時に出て夜の 9 時に帰ってきて荷馬車で運んできたという、すごいいきさつが書いてある。それは国際的な問題とは別に、先人が苦労したことを、やっぱり残していかなきゃいけないんじゃないかなっていう思いもある。</p> <p>もう一つ、芙蓉館の碑、ここの前にある芙蓉館の碑がありますね。あそこに書いてある内容難しくて分からないのですが、あれは、ただ残しておきたいってということだけでなく、その裏の中には第 44 代の浅間大社の大宮司富士亦八朗重本さんがどれほど苦労して、私塾を作って若者を教育したかということがある。その教え子たちが有名な土屋町長、池谷さんなど、すごく優秀な人物を輩出したというのがある。</p> <p>ただ、芙蓉館の碑という碑があるというだけじゃなくて、その碑はこういうことなんだよということをやっぴりもう少し伝えられる、ご由緒みたいなやつがそこら中に松山神社とかいろんな神社もあるが、あれでは僕は足りないと思う。ある程度もう少し詳しくあれば、街の中を歩いてちょっと暇なときに見ると、また興味が湧いてきてくれると思うので、その辺の、何か</p>

	<p>色々なものをもうちょっと深く知らせるものを作ってほしいというのが感想です。以上です。</p>
<p>佐野（和） 委員</p>	<p>市役所の企画戦略課の佐野と申します。端的にまず課題ということで、やはり総合計画、私どものもとで作っていますので、先ほどあったようにこれから作っていきます。</p> <p>その中で人口減少を受け入れていくまち作りを作っていくような大テーマで、これ今度の計画ではあるので、そうなるともう単純に、1人1人が担う役割が増えてくるということになる。そういった中で、1人1人の方がやっぱり郷土愛を持って心豊かに癒しを感じられるような、そういった環境を作ってくつてということが、この文化財の計画でも必要になってくると思う。</p> <p>そこに繋げていってもらいたいなという思いで、二つ目が文化財文化を自分事にするということだと思います。先ほどから聞いている中で、あえてちょっと違った意見といいますか、子どもたちというのは学校とかで文化とか、こういった郷土とかのことにはかなり触れているんじゃないかなと思って、そうすると我々働いている20代30代40代の大人、その方たちが文化に触れることがあるのかなと思う。それこそ働いてまさに社会をリードしているそういった人たちに文化に触れてもらう、それが大事なんだと感じてもらうことが結構大事なことはないかと思う。</p> <p>一つの方法として、やっぱり文化に触れてくださいと言っても駄目なので、何かにくっつけるとか、やっぱり健康に興味のある人に健康と文化を何かが、歩く博物館だってそうかもしれない、自転車と文化、そういったことができるのかなと考える必要があるのかなと思います。</p> <p>最後その一つの例として、80周年のときに、これは今度子どもなんですけど、富士宮市では絵本を作りました。「コメタの富士宮見つけた」という本ですが、具体的に金額を言ってしまうんですけども、富士宮信用金庫から500万いただきましてそのお金で7000冊作りました。作家は絵本作家の人に頼んで作ってもらって、富士宮市からは一銭も出ていません。その中には富士宮の歴史も含めた富士宮のことが書いてあって、見ると富士宮のことを知るような、例えばそんな方法も歴史って文化とか、そういったものでもできるのかなというようなこともありましたので、ちょっと思い出したので、それもつけ加えさせていただきます。</p>

井出委員	<p>まず最初に、他市に先駆けて埋蔵文化財調査について、斬新的な手法を採用し、なおかつ早くから歩くエコミュージアム的な歩く博物館を作成して取り組んでいる事務局に対して敬意を表します。</p> <p>富士宮市の課題ですけれども、富士宮市は先ほどご説明もありましたが、私ちょっと旧大宮地区の人間なのでそういう言い方になってちょっと失礼かもしれないが、旧大宮町を中心として、周辺の地域を合併して成り立っている市なので市域が大変広く、文化財は点在しています。そこはすごく不利な点なんじゃないかなと僕は思っている。</p> <p>歩いて全部回れないので、なおかつお祭りについても、私が昔はすごく参加していた富士宮の秋祭りですが、県の無形文化財にも指定されてはおりますが、全市的なお祭りとはとても言えないお祭りだと思っている。</p> <p>そういった点は、市の一体化がないというところは大変な課題なのではないかなと思う。</p> <p>先ほど事務局の方からもお話があったが、文化財に一番触れる機会は観光だとあったが、その通りだと思う。私のように歴史が好きな人間は文化財に興味を持ちますが、一般の方で文化財に興味があるって方は本当に少数派だと思うし、文化に関する観光地に行く方々も文化財を見るよりも、何かお土産を買う方が主みたいの方が多と思う。</p> <p>ですから、計画を作るに際も、もちろん純粋に文化財を大事にするとかそういうのも大変必要なことだとは思いますが、前回の資料を見ていると、角入委員がワイワイガヤガヤということをよく書いてあったんですが、楽しいとか、経済的なことも合わせて考えた方が机上の空論にならずにいいのではないかなと思う。</p> <p>つまり複合的な文化財というだけに特化するのではなく、複合的な計画を立てて行うのは良いと思う。その際によく防災で自助共助公助と言われているので、とりかかりは市役所の事務局の方に助けていただければならないが、一旦軌道に乗ったら、市民が主役でやらなければ全く続くことではないので、その辺も考えた方がいいと思った。</p> <p>最後に斎藤委員が富士山学習というお話があったが、確かに20年ぐらい前かどうか、もう私60なので、確か20年ぐらい前に秋祭りのことで、常盤区の女の子達が今はもう無いマルジュウの秋祭りのことを聞きに来たことがあったので、その時に望月委員もいたのかなとちょっと思いまして、これちょっと余分ですが。失礼しました。</p>
佐野（順）委員	<p>時間も押していて悪いが、文化を守る、紹介してみると、自治会をしっかりと、地域を存続させると。そこは地域を守ることが、やっぱりとても大事だよ。それから文化を共に守っていくという部分が大事じゃないかなと思います。</p>
菊池委員	<p>県内では地域計画を作っているところが今8市あって、既に認定されているところが8市あるんですけど、富士宮市さんがこのアンケートを取って歴史的背景をまとめて、歴史的特徴を整えて、そして将来像方針って、書いてある流れは県内でもトップレベルに綺麗にまとまっているかなと思ってちょっと関心しているが、1点だけちょっと残念だったのが、実はこれよくなると思うんですけど、あの3番の資料のところ4ページのところの目標の将来像で、赤字で価値が明らかであるとか、みんなで守り伝える、活用し理解を増やすっていうところの説明が少し不足していて、これ多分、富士宮市が目指すべき姿なのかなと思う。そういったところもちゃんと説明できると、非常にうまく繋がると思う。上手くまとめていただければと思う。</p> <p>それから皆様にちょっとご意見を聞く中で2、3補足していったらいいと考えまして、斎藤委員の方から言われた身近な新しい文化財とか、そういうものとのつながりというのは、実は国のほうもすごく心配をしているところで、実は今急速に失われているのが昭和3、40年代の歴史資産で、古い木造の校舎だけ残すじゃないですか。でも自分たちが子どもの頃行ったときの校舎ってどんどん変わっていったりするので、実は昭和のものが残ってかないんじゃないかと</p>

	<p>ということがすごい懸念をしているところなので、よくお気づきになったなと思う。</p> <p>それから佐野委員の方からご指摘があった、実は他の市でも話題になっていて、子どもとお母さんと、それからちょっと年配の方もその文化財に触れる機会が多いが、実はおじさん層は文化財に触れたり、意外とないんじゃないかなってことは他のところでも話題になっていたところ。上手い解決が出るわけではないのですが、他の市でも課題になっているのは富士宮市でも共通の課題なのかなと感じたところです。以上です。</p>
角入委員	はい、ありがとうございます。もう色々言わせてもらったので、もうございません。
石田委員	本当に今日は勉強になりました。本当にありがとうございます。ただ一つだけがっかりしたのは、13万人を切ったんですって？分かりました。どうもありがとうございました。
小西委員	浅間大社でございます。いつもお世話になりました、ありがとうございます。今日大変いい勉強をさせていただきました。ありがとうございました。特に意見は無いのですが、文化財所有者で出席しているが、やはり文化財は建物と工芸がある。あるものを守るだけじゃなくてやっぱりこの作る、建物を建てる宮大工、工芸を作るなら職人を育てるというのも、もっと広い意味での大事かなと考えているので、そういう意味で例えばこの5番の目標のところにも書いてあります、保存に関わっている人材や団体を育てるのも一つの大きな目標かなと思っていますので、ちょっとご検討いただければ幸いです。よろしく願いいたします。
西田委員	<p>富士宮の課題ということではなくて、今回の読ませていただいて感じたことだけお伝えしたい。</p> <p>基本的には読ませていただいて、非常に人をベースにしたものなのかなと思った。文化財、人が作るものですし、残して行くものだし、守っていくものだと思っているので、この考え方が前面に出ているのかなあと、その点は非常に楽しくというか勉強になって読ませていただいた。</p> <p>ただ自分が歴史をやっているんで、もう少し保存というか、保存活用計画なので、活用とか入っている部分では、非常に素晴らしいと思ったが、そういった点をもう少し盛り込んでもいいのではないかなというふうに思った。</p> <p>保存には多分、この1番目のところの掘り起こしだが、洗い出しとかデータベース化に行ったものが非常に重要である。つまりどこに何があるのかっていうのを把握するというのが一番重要なことであるので、これでどんどん進めていただきたいなと思った。</p> <p>あと、やはりもう一つ先ほど来出ている少子化の問題とか、地域が文化財を保存していけなくなる、持ち続けられなくなるという状況が多分あると思う。そのときに積極的に富士宮市が文化財を収集していくとか、積極的に自分たちで残していこうとするならば、それをどういうふうにしていくのかっていうところがもう少し何か方針、例えば、既存の施設を利用して何かするとか、何でもいいが、あるいはとにかくサポートして守ってもらうようにするとか、何かそういった、今後どうするのかっていうところを一つ。</p> <p>それから災害対応。災害の話が出ていたが、やはり災害が起きたときに資料をどう保存して残していくようにするのかっていうようなその対策も、やはり今、能登もそうだが、どうするかというのは事前に少し考えておく必要があると思うので、その辺を少し入れ込んでいかれた方がいいのかなというふうに思った。以上です。</p>
小笠原会長	ありがとうございました。各委員からいろんなご意見が出てきて、先ほど申し上げましたけど、皆さんも前向きに積極的なご意見があって、こんなに私は色々な会議で委員長やったり司会やったりしているが、協議会っていう仰々しい場で、楽しい協議会っていうのは初めてだと思ったので、非常に私自身も非常に勉強になった。

最後に今、西田先生からもご提案あったが、私も博物館とか文書館とかそういうところで勤務していたことも長いので、いかに歴史資料をきちんと後世に伝えるために、どういうふうに保管管理していかなくちゃいけないのかっていうのは結構やらせていただいた。

西田先生が災害のこともおっしゃったが、災害が起きて、実際能登の方では、珠洲市の資料館なんか相当被害を受けて、貴重な珠洲焼がもうどんどんかなり破壊してしまっていて、前回の地震でも破壊して今回の地震でも壊滅的に破壊されたという、そういう話も聞いている。

あと、紙の文書の資料とかも非常にちょっとした光線、光でも、直射日光だと絶対アウトですけども、蛍光灯なんかも普通はアウトです。結構かなり難しい。そういうものを適切に保管管理していく、あと湿度管理もできる、ちゃんとそういった施設を作るっていうのが必要です。

また、先ほど昭和 30 年代、40 年代の資料がどんどん失われている話があったが、そういった資料を集めて、それを適切に保管しておく施設も必要。

これから少子高齢化で地域が資料を持ってなくなってくるという話もあったが、特に祭り関係のもの、道具だとかそういったものって、祭り自体がなくなってそうすると忘れ去られて、それがどんどん地域に置かれる。私の住んでいる千葉県でも失われていく祭りのいろんな貴重なもの、非常に伝統的なものがどんどん捨てられていってしまうっていうのは、非常に多いので、そういうのを適切に守り伝えていくような、集中して守り伝えていくということを、〇〇を積極的にするってそのためにちゃんと適切な施設を作っておくということが非常に大切だなと思う。

西田先生の受け売りになってしまったが、市計画の中でも可能な限り盛り込んでいただければと思う。

だいぶ時間が伸びてしまい申し訳ございません。では次に記事の(4)、最後になりますけれども、今後の進め方について、事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局

はい、それでは資料の方は 4-1 と 4-2 の説明。

先ほど会長からもあったが、皆さんからかなり意見いただき、今、この 4-1 の表の方が先ほど説明した将来像と方針が左側にあり、その横が、どういった方策をやっていけばいいかという、文化課で簡単に考えたものとかを並べてある程度だが、今いただいた意見なども参考にしたり、次の資料 4-2 の方で、今後はこんな形で、そういったところも含めて確認していくよというところですけども、今の方策などにつきましては、市役所の庁内とかですね、あと文化財の所有者さんの主な文化財の所有者さんなどともお話しさせていただいたりして、現状と課題と、今後こんなことを考えてるよなんていうところを教えていただければと思っています。

あと、活用というところでは今日皆さんこの協議会、いろんな団体から代表で出ていただいていますけれども、そういった団体さんの方ですね、ちょっと今日は代表でお 1 人なんですけれども、何かあの回に合わせて他の方からも、今後こんなことを歴史文化に関するんだったらこんなことも考えているよ、なんていう情報とかも教えていただきたいなと思いますので、また今年度か来年度にかけて調整してお伺いしたいなと思っています。あと若者との意見交換などもやっていきたいと思っています。二つ目として意識調査ということで、あの二つ目として、意識調査として、今月市政モニターアンケートもここなのですけれども、また夏休み小学生のアンケートとかどうかなんて思いながら、そんなこともちょっと考えていきたいと思っています。で今日いただいた意見などとか、こういった聞き取りをした意見なども含めてですね、3 番、計画内容と会議ということで、5 月から 8 月ぐらいまで段々詰めていってですね、また半年後のぐらいに、協議会の方を開かせていただきまして、おおよそ措置とかそういったものを確定したのを見ていただければなと思っていますのでよろしくをお願いいたします。

小笠原会長	ただいまの事務局より説明がありました今後の進め方に関しまして、質問ご意見がございましたらお願いいたします。また何かありましたら、直接事務局の方へお問い合わせしていただければと思います。本日将来像や基本方針の方で事務局からご説明していただきましたけれども、委員の皆様方からも本当に活発なご意見をいただきましたので、事務局の方でまたさらに見直しをご検討いただいて、富士宮市のあの実情に合った計画となるようお願いを伝えていきたいと思ひます。それでは以上で議事の方は終了したいと思ひます。進行を事務局の方へお返しいたします。
柿崎	本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。本日いただきましたご意見を加えてさらに検討し、文化庁に相談して進めていきます。次回は半年後の 8 月ぐらいを予定しております。できるだけ早めに予定し、また資料を先に送らせていただいて進めたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。それではこれで、令和 5 年度第 2 回富士宮市文化財保存活用地域計画協議会を閉会いたします。